



学校法人駒場けやき学園 駒場幼稚園

とうきょう すくわくプログラム

令和6年度 活動報告書

令和6年度、駒場幼稚園では4つのテーマですくわくプログラムに取り組みました。

1. 身近な生き物との暮らしを探究しよう
2. 米作りと暮らしの文化を探究しよう
3. 絵本と音楽を楽しみ、友達と一緒に演じることを楽しもう
4. 文字や数の世界を探究しよう、色々な感覚を研ぎ澄ませてみよう

< テーマ1 身近な生き物との暮らしを探究しよう >

◆テーマについて

・園庭の昆虫や草花、樹木の実や種、落ち葉、飼育しているうさぎと亀、魚やイモリに、園児は興味を持つ。日々の暮らしの中で、園児が身近に生き物と触れたり、観察したりすることのできる環境を、園としても従来から必須の教育資源として重視し、その保持に努めている。

・園児自身が小さな生きものに会い、興味を持って直接触れてみたい、じっくりと観察し、その生態を学ぶ機会を大切にする。またそのような活動を年間の教育活動の中に位置づけ、日々の園生活で身近な生き物と共にあることを楽しみ、自然や生命に対する興味関心を広げ、園児の自発的な探究活動を進める。

◆活動報告

4月～

◎園にいる生物や草花、木と出会う

園庭や保育室で遊びながら、そこにいる生物のことを知り、観察したり、関わってみたりする。

◎4/25（金）「どうぶつたちがやってくる」の実施

園庭に牧場から動物（ウサギ、モルモット、ハムスター、ひよこ、ニワトリ、ヤギ、ひつじ）を連れてきてもらう。

- ・年少組は動物の様子を見て、餌をあげてみる、触ってみる。
- ・年中組と年長組は、前年度のことを思い出しながら、牧場の職員からそれぞれの動物に合わせた餌のやり方や抱きかかえ方、好む食べ物などを教えてもらう。疑問に思うことを質問して答えてもらう。
- ・年長組は、動物たちと触れ合った後、動物たちをケージに戻すことと片付けを、牧場職員の指導を受けながら一緒に行う。

↓

その後、園で飼育しているウサギに一層興味を持つ。

- ・餌をやってみる。何を食べるかな？園庭に生えている葉っぱで好きなものはあるかな？
- ・ウサギはどうしてもらうと嬉しいのかな？
- ・ウサギの飼育ケージに興味を持つ。餌箱、入れてある餌、給水用のペットボトルから、どのようにして水を飲むのか、トイレ。
- ・ウサギの様子を観察する。食べる、食べない。怖がっている？耳を寝かせている、立てている。ひげが動く。

◎春～初冬 園庭で虫探し

・ダンゴムシを探して捕まえる。年少組は年上の学年の子どもから、どこにいるかを教えてもらう。葉っぱの下、石やプランターをどけるといふ。虫を触れない子どもは、触れる子どもに代わりに捕まえてもらう。ペットボトルや空のプラスチック容器に入れて観察する。

・年中組は飼うために、ダンゴムシの食べるものや、どんなところを好むのかななどを調べる。年長組の子どもはすでに知っている人が多いので、自分から必要と思うものを飼育用の容器に入れている。

・年中では、何匹かチョウをサナギから大事に育て、日々変化を観察したり、チョウになって飛び立つまで、羽を乾かす過程や、砂糖水を飲む様子など、じっくりみることができ、貴重な体験ができたと思う。

◎通年 熱帯魚の観察

・エサをやることをきっかけに、また、さまざまな種類がいる魚の様子に興味を持つ子どもが増えていった。

・年長組園児は、観察するうちに、「魚の名前を知りたい」「大きさを測りたい」「エサが水に沈んでいく時間を計りたい」「小さい魚の口をもっとよくみたい」「魚の絵を描きたい」など、次々と興味関心を広げていった。そのため、水槽の近くに、魚の名前と写真のカードを用意してもらったり、拡大レンズ、絵を描ける紙、色鉛筆、机と椅子などを用意できるようにした。

・何人かが一度にエサをあげに来ると、多すぎて全員はあげられない、魚のためによくないということを説明する。すると、子どもたちの方からエサをあげたい人の予約表を作ろうと発案があり、自分たちで表を作り、水槽の傍に貼る。

・水槽管理の方が子どもたちのいる時間に来てくださり、水槽の水の換え方を教えてくれる。また、「この魚はどこから来たの?」「どうしてこの魚はこんな色をしているの?」などの質問に丁寧に答えてもらうことができた。

◎春～初冬 花びらの色水作り

・花びらを集めて、水の中に入れる。それだけでもきれいで、大事に家に持ち帰る。

・花びらの採り方（蕾やこれから咲く花や、きれいに咲いている花は残す、茎を押さえてはながらだけ取る等）を教師から聞く。

・年上の学年の子どもが花びらをすり鉢ですって色水を作っている様子を見て、同じようにやってみる。コツをつかんで色が出てくるまで少し難しい。

・できた色水をペットボトルに移し入れる際に漏斗を使ってみる。

◎通年 木登り

・必ず教師に傍にいてもらうこと、を子どもとの約束としている。しかし教師は登り降りを手伝わない。自分で登り、降りられる人が登る。

・年長組の何人かが登れるのを、登れない人がうらやましそうに見ている。教師は、登っている人の様子を、登れない子どもと一緒によく見て、「手も足も、あんなふうに使っているねえ」などつぶやいてみる。

◎5/30,6/3 年少組屋上遠足

・年少組の子どもたちを年長組園児が屋上まで連れていく。屋上には年少組の保護者が待っていて、その後親子で、屋上はらっぱで遊ぶ。野花を摘んでブーケを作る、虫を捕まえる。

原っぱにシートを敷いてお弁当を食べる。虫が寄って来る、地面はでこぼこしていて座り心地が悪いことを経験

◆活動のために準備した素材や道具、環境の設定

◎職員による環境整備

・園庭のプランターに花を植える。（前年度末の春休みに）

・園庭の樹木や草木の様子を確認する（毛虫の発生、枝や根の様子）。

・木登りの際、足掛けになっている部分の確認、補強。

・年少組保育室に水槽（金魚、アカハライモリ）設置。

- ・年少組保育室前にウサギ、亀のゲージ設置。
- ・玄関ホールおよび年中組保育室前に設置されている観賞魚の水槽を確認する、メンテナンスを依頼する。
- ・園庭の池のメダカを確認する。
- ・屋上はらっぱの草刈りをする。

◎用意した教材等

- ・飼育観察箱
- ・色水作り用のすりこぎとすり鉢、ロート、計量カップ等
- ・魚観察用のシート状レンズ
- ・電子拡大鏡

◆振り返りによって得た教師の気づき

- ・暖かくなった頃、プランターを年少組の子どもたちと覗いてみると小さな芽がでていました。それを見て、「チューリップのあかちゃんがうまれてるー！」「みんな！きてきてー！」と喜ぶ姿がありました。その後、ジョウロに水を汲んで「おおきなあれ、おおきなあれ」と言っていて、心が温かくなりました。
- ・園の植物や魚たちへの興味、気づきを促し、今後の活動へ繋げていけるように心掛けてきました。玄関での「お魚さんで待ち合わせ」は合言葉でした。チューリップは日々の変化に子どもたちから「みて、大きくなったよ」と声が上がっていました。柿やみかんはその成長を楽しみに「食べたい」と日々見る姿がありました。
- ・日々の生活の中で、生き物が近くにいることで、安心したり心を落ち着かせることができたり、生き物に興味をもつきっかけとなったり、一人一人の心の拠り所になっていたように感じる。
- ・H2の馬場さんに来ていただけたことが、水槽の中の生き物により興味を持つことができたと思う。今までにないくらい、水槽の前が毎日のように賑わっていた！動物たちがやってくるも同様だが、専門家が来てくださって、直接色々な話を聞ける機会は貴重で、とてもいい刺激になるのだと感じた。
- ・こうやって改めて考えると、これらのことがいかに日頃から自然に行われてきたか、を感じる。特に意識せずとも、これらを日頃の中で取り組める環境がここにあることが大切だ、と思った。興味がある人ない人もいるかもしれないが、保育の中で遊びの1つとしていろいろなことに触れ合える、気づけるようにできるといいな、と思った。初めは、これらのものがあることを遊びの中で知り、そこから興味関心を深めていけるような教師の関わりが必要なのかな、と思う。たんぽぽ～年長までの年齢によって、関わり方、興味関心の深め方はいろいろなので、そこに向けて、図鑑や虫眼鏡、その他必要なものは常に用意しておき、いつでも使えるようにしていけるといいなと思った。



魚の絵を描く



動物たちの世話の仕方について聴く、質問する

< テーマ2 米作りと暮らしの文化の探求 >

◆テーマについて

- ・近隣の高校が地域の公園で 60 年来米作りの活動に取り組んでいる。園児にとって身近な公園の風物詩であるが、自分たちでも米作りに取り組み、米作りを中心に紡がれる日本の暮らしの文化を、園生活において実体験していく。
- ・米作りは本園でも 20 年以上続いている取り組みであり、園舎屋上に田んぼがある。年度末には年長組園児から年中組園児に「お米の作り方」が引き継がれていくため、年長組になったらやれることとして、園児自身が誇りに思い、楽しみにしている。
- ・植物としての稲の生長に加え、米作りに伴う様々な技術や知識があることに気づき、体験して学ぶ。
- ・身近な生活の中で実りや収穫を祝い・幸せを祈る文化に米が深く関わっていることを知り、伝統文化を味わい、継承していく。

◆活動報告

- ・4/22：苗作り(お米の実験～種籾を選ぶ)
- ・5/14：代かき(造園業者さんと一緒に田んぼの土を作る)
- ・6/11：近隣の高校へ年長組が苗をもらいに行く。その際、苗作りのハウスを見学させてもらう。
- ・6/12：田植え 年中組の希望者が観る、体験してみる。
- ・7月～9月：稲の生長の観察
- ・10/2：収穫(先生と一緒に鎌を使う)
- ・～11月：稲穂を保育室内で干す(稲穂の匂いを感じたり稲の様子の変化を観察する)
- 11/27：注連縄作り(稲苗をもらった高校からも藁をもらってきて、その分も加えて作る。)
- ・12月～：籾外し、籾殻剥き(いろいろな方法を試す)、
- ・12/17：餅つき、鏡餅作り
- ・1/8：始業式にホールに鏡餅を供え、獅子舞を迎える。(獅子に噛まれる経験をする、後に自分たちでも獅子頭を作り、獅子舞をして、頭を噛んであげる)
- ・1/10：鏡開き(年長児が主となって行い、他学年の園児を招き全学年で経験する)
- ・1/15：どんど焼き(園庭に焚火を熾して園で作った注連縄や鏡餅の飾り、各自が家から持ち寄った正月飾りを焼く)
- ・1/22：年長組お茶会(事前に初釜の意味や茶道の文化について知る、参加する、お茶の先生に質問する。園は年長児への卒園祝福の意をこめて、保育室をお茶室仕様に整え、可能な限り本格的に実施する。)
- ・3/11：年中組へ稲の作り方を伝えるため、絵と文章で説明書きを作る。年中組の子どもたちに説明書きを示しながら、年長組の子どもたちが説明し、今年取れた稲穂の束を手渡す。

◆活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ◎代かきの前に、造園業者さんに田んぼの様子を見てもらい、補修してもらう
- ◎稲苗を分けてもらう高校と連絡、日程調整
- ◎鎌などの道具の確認
- ◎餅つき用品一式はレンタルで調達
- ◎お茶会前に、お茶道具一式の説明を写真入りで作成、年長組の保育室前に掲示しておく

◆振り返りによって得た教師の気づき

- ・満3歳では実際に関われる事は限られていましたが、獅子舞ではそれぞれが感じている姿があり、鏡開きは年長とのよい関わりがありました。また、昨年経験した事が確実に個々の成長になっている事を年少の姿を見て感じられました。
- ・年長組の活動を興味津々に見て感じていた年中組。年長組がなにをしているのかがわからなくても、自分たちが経験するときに、聞いたことと経験が繋がるのだと、考えると、年中組のときに年長組の活動を見たり聞いたりすることは重要な経験だと感じ

る。

・今回の春休み中、6年生たちが遊びに来た時に屋上に上がった際、「あ～懐かしい！」「お米作ったよね！」「まだやってるの？」という声がたくさん挙がった。子どもたちの心にお米作りの体験が残っていることを実感できた。令和6年度の子どもの心にもこうやって残るのかな？と思い、やってよかった！と感じた。

・屋上の田んぼは、駒場幼稚園ならではの活動。これに関わる憧れが子どもたちにはある。もちろん、泥が苦手な人もいるが、その人ができる範囲で参加できることを考えていけばいいのかな、とも思う。お米は日本人の主食とも言われているので、普段自分たちが食べている米がどう育ち、収穫するのかを身近に体験できることはとてもいいことだと思います。1粒ずつむくのが大変だ、と感じることをとつても経験してみないとわからないことだらけ。それを感じ、次の年長組に引き継ぐまでを1セットとして考えていくことも私はとてもいいことだと思っている。自分たちが体験してきたことを伝えることってなかなか難しいので、写真をヒントにやったことを文字にしていく作業もいいと思っている。

・お茶会は、お茶会の前から道具の掲示をしていくことで、興味をもつきっかけになればと考えている。今年度は、道具の名前を覚えている人が多く、実際に使う道具を近くで見せてもらえたことで、より興味関心がわいた。私は初めて、「お茶の葉は椿科の植物だから、園庭には、椿科のさざんかがある」と子どもから言われ、お茶の葉から、抹茶を作る遊びを知った。これはとてもおもしろく、興味深い。すりこぎ棒やすり鉢なども用意できたことはよかった。必要なものがすぐに取り出せることはいい。



鎌を使って稲を刈り取る



一粒ずつ粃殻剥きをした米を洗って餅つきの準備をする



獅子に頭を噛まれる



自作の獅子頭を被り、お囃子も演奏する



自分たちでもお茶会を開く 手前のお客様も正座



園庭の椿の葉を使い、抹茶を作る

< テーマ3 絵本と音楽を楽しみ、友達と一緒に演じることを楽しもう >

◆テーマについて

- ・絵本は貴重な文化財であり、本園では絵本のある生活を従来から重視してきた。絵本の専門講師を迎え、移動図書館を行う際の選書や絵本の紹介、読み聞かせなどを行っている。
- ・園児が絵本を個別に楽しむだけでなく、クラスや学年で共に楽しんだ絵本を題材に、劇あそびや音楽物語に展開する機会を毎年設けている。
- ・人形劇団を招き、ホールで鑑賞する。身近な場所で繰り広げられるお話の世界、人形の動きや演技、舞台設定や小道具等の様々なことに園児は興味を向け、翌日からすぐ真似をして、自分たちでも人形劇をやってみるなどして遊ぶ。
- ・毎年の定例行事である音楽物語の演奏会では、音楽物語の中に、園児の歌のパートを作る。音楽会を前に、絵本を繰り返し楽しみながら劇中歌を歌い、物語の世界の楽しみを一層深めている。
- ・プロの音楽家の演奏を間近で聴き、自分で選んだ楽器の演奏体験をしたり、演奏家に質問したりその話を聴く経験は、楽器や演奏することへの興味関心を深め、その後の音楽会遊びなどに展開していくことが予想される。
- ・園児はどの学年でも、演じたり踊ったり演奏したりすることを日々楽しんでいる。またそのような遊びに必要な衣装や小道具、楽器、舞台も自分たちで創意工夫して作っている。専門家による人形劇や音楽会も楽しんだ後、年度の終わりには、お客さん（保護者）に観てもらいたいこと、見せたいことを自分たちで考え、「お楽しみ会」で発表する。

◆活動報告

- ・移動図書館実施：5/23,30,6/20,7/4,9/12,10/10,11/14,12/12,1/16,2/13,3/6
- ・お話の会(年長)：2/28 素話を聴く
- ・通年：プリンセスショー、ヒーローショーなど、衣装を作って身につけ、曲に合わせて仲間と一緒に踊ることを日々楽しむ。
- ・通年：ぬいぐるみや手作りの人形で人形劇をやり、お客さんに見せることを楽しむ。
- ・人形劇団の公演 11/13 や音楽会 12/5 を楽しみ、自分たちの遊びに活かす。
- ・お楽しみ会：2/14 保護者を招いて自分たちの日頃の遊びの中から「見せたいこと」を披露する。この日に向けて各学年で、子どもたちが主体的に計画）^ あし、アイデアややりたい気持ちを生かした独自の取り組みを進める。

◆活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ◎音源の準備（子どもたちが好みそうな音楽を選んで、すぐに出せるようにしておく。）
- ◎工作材料の準備（衣装や髪飾りなど、作りたいと思うであろうものに合わせて素材や道具をそろえておく。）
- ◎ショーのステージに使えるもの（少し高さを出せる演台や、幕に使える布等）を用意しておく
- ◎音楽会の日程以前から、音楽物語の題材の絵本の場面や使われる予定の楽器の図や写真を、園舎内に掲示しておく
- ◎音楽家の方たちと、音楽物語の構成や進行について、綿密に打ち合わせをしておく。楽器の紹介をしてもらい、子どもたちからの質問に答えてもらうことや、子どもたちが楽器に直接触れて音を出してみる楽器体験への協力を依頼しておく。

◆振り返りによって得た教師の気づき

- ・音楽会やプーク人形劇、獅子舞の行事が終わっても余韻を楽しみ、遊びに取り入れている姿をあちらこちらでみることができました。改めて、本物に見たり触れたりする機会の大切さをとても実感しました。
- ・入園当初は、手遊びに参加する事を恥ずかしがっている人もいましたが、徐々に参加するようになりリクエストまであがるようになっていきました。また、集まりで読んだ絵本、歌った歌を遊びの中で自分たちで楽しむようになっていきました。それに伴い個々の表現が自由さを増していったように思います。
- ・各学年が、人形劇、音楽会を体験した後それぞれの遊びとして楽しんで行く姿に、確実に経験を通して心動くものを体験したんだなあと感じます。
- ・プロの音楽家の演奏を見たことをきっかけに、楽器に興味をもつ人が増えた。子どもたちが自然とやってみたいと思う環境を大切にし、楽器を揃えたり、保育者も一緒に楽しんだりしながらかわってきた。
- ・日常に触れる絵本や歌の積み重ね、そこにプークや音楽会等、プロの方々の刺激が加わり、それがまさに子どもたちの遊びの刺激になっている、ということを毎年実感している。テーマ1でも書いたが、日々を大切にしつつ、プロの力を借りられるこの環境はとても貴重だし、今後も大切にしたい。
- ・日頃の生活に行事というエッセンスが加わることで、子どもたちの生活が豊かになる。すぐに取り入れたいくなるようなものが多く、年長は自分たちなりに考えて、取り入れていた。すぐに遊び出せるように、楽器を準備してみたり、子どもたちからのリクエストを予想して、物を準備しておくようにした。そして、「こどもたちのやりたい！こうしてみたい！」という気持ちが実現できるように、どうすればできるかを一緒に考えたり、悩んだりしながら、子どもたちが主体となって進めていけるように関わることを大事にしてきた。



移動図書館



音楽会后、演奏家と楽器体験



日頃のショー、
人形劇などの上演風景



< テーマ4 文字や数の世界を探求しよう、色々な感覚を研ぎ澄ませてみよう >

◆テーマについて

本園では、モンテッソーリ教具や教材を貴重な文化財としてとらえ、幼児期の子どもに是非出会ってほしいと考え、その機会を保育時間中のコーナーとして設けてきた。

幼児は文字や数字の世界にも興味を持つので、幼児の興味にふさわしく、存分に探求できる方法としてもモンテッソーリ教具での活動は大変面白く楽しい。また、様々な形の立体を、感覚を駆使して識別・認識していくことや、色彩の繊細なグラデーションをとらえていくこと、音を聞き分けること等、幼児期の感覚能力をフルに発揮させる多彩な活動がモンテッソーリ教具で用意されている。幼児期の子どもたちが文字や数、また色彩や立体、音の感覚などを探求していく様子に注目したい。

◆活動報告

・6月10日（月）より、3月10日（月）まで毎週月曜日、9:30～11:00、11:30～13:00の間「モンテの部屋」というコーナーを設ける。教具の使い方や活動の仕方についてはモンテッソーリ専門講師が指導を担当する。

・該当の日に、“今日は「モンテの部屋」が開いている”ことを教師が園児に伝え、やってみたいと思う園児が、担任にモンテの部屋に行くことを伝えてからモンテの活動に参加する。

・年度の最初は年長組のみ参加、11月25日（月）から年中組も参加。

◆活動のために準備した素材や道具、環境の設定

◎教材・教具の確認（破損、欠品の確認、必要な補充）

◎新しく備えたい教具の選定を専門講師と相談、購入

◎保育室の整頓（静かで、集中できる空間となるように、雑多なものが置いてあるところには布を掛けるなど）

◆振り返りによって得た教師の気づき

・葉のタンスを置く位置を変えてみたいと言う子どもが増えた。目に留まる位置に置き、活動を促していきたい。久しぶりに入室した子どもが自分から「これ知っている！」と言って手に取る様子が見られた。

・数、日常、感覚、言語の教材が充実してきて、子どもたちも惹かれる様子がある。

・幾何立体を繰り返して行ううちに、円錐、三角錐が似ていることに気が付き始めたり、球、楕円体、卵体など似ているものどうしを使って難易度をあげると嬉しそうにしている。

・「机を洗う」をした A ちゃん。したことはあるが、久しぶりなので手順を確認していた。拭き終わると「机が光ってる！」と嬉しそうであった。

・洗濯をした B ちゃん。手順をみながら、「水を入れるんだね」、「（せんたくいた）お風呂をこするのに似ているね」（ゆもみの板のことだと思います）と言ったりして、手順を言葉にしていた。終わった後、「すごく疲れた」言い、部屋に戻った。

・C くん、花のパズル、数の記憶遊び、はめ込み円柱のゲームをした。静けさのゲームをすると、「なんか気持ちいい」と言っていた。

・D ちゃん、棚を一通り見て「やったことないことしたい」と言っていたので、数の棒と数字カードのおしごとを誘った。数字をみて、数の棒を持ってくる活動を教師とした後、「もう一度する」と言って一人で2回目をした。

・子どもたちが、ワクワクした表情でモンテに向かう姿が、楽しみを見つけているなと感じていました。

・モンテの部屋は興味がある人が主に通っていますが、先生の用意して下さる教具がおもしろい。今までにないものがあった、興味深かった。文字を写す作業のもの、「を」を何十枚も書いている人がいて、ひらがなで難しい字を何枚も書きたい気持ちから取り組めるところがすごいな、その集中力と根気強さ。モンテの教具 1 つでこんな姿があるのはおもしろい。保育室にもひらがな表はあるが、写し紙、それを挟む小さなバインダーなど用具からも興味がそそられるのではないかと、思った。

・教具を扱ううちに、100 の概念を理解し、1000 をやりたい、と言ってきた子どもがいたが、教具が足りずに、子どもも先生もが

っかりする場面があった。ぐんぐんと次へ、先へと探求を進めていく子どもの意欲がそがれないように、どうすればよかったらうか。専門講師とも一緒に引き続き検討したい。



他の人のやり方を観る



本物の花を確認しながら塗り絵をできるように準備



どれを選ぶか、相談しながら決める。



友だちと一緒に。ひとりで。